

砂糖の価格調整業務実績について (令和6砂糖年度)

特産運営部、特産調整部

はじめに

当機構では、砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律（昭和40年法律第109号）に基づき、輸入糖、異性化糖および輸入加糖調製品の買入れ・売戻しにより調整金を徴収し、それらを財源として国内のサトウキビ生産者やてん菜糖・甘しや糖の製造事業者に交付金の交付などの支援を行うことで内外価格差を調整し、国内の砂糖の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和6砂糖年度（令和6年10月1日～令和7年9月30日。以下「6SY」という）における砂糖の価格調整業務実績などについて取りまとめたので、報告する。なお、てん菜生産者への交付金交付に要する国庫納付金が未確定のため、支出および収支は見込みでの記載となる。

1 砂糖の価格調整業務における収支

(1) 収入

収入については、輸入糖は、主産国における良好な作柄を背景とした砂糖生産量の増加見込みなどに

より、砂糖の国際相場が下落基調で推移し、調整金単価が上昇したため、前SYより58億円増の211億円となった（表1）。異性化糖については、前SYより12億円増の22億円、輸入加糖調製品については、前SYより3億円増の107億円となったほか、糖価調整制度安定運営緊急対策交付金として60億円が充当されたことから、国費を含む収入全体では前SYより141億円増の499億円となった。

(2) 支出

支出については、てん菜糖、甘しや糖ともに交付金単価が低下したものの、てん菜に係る国庫納付金額が増加したこと、国内のサトウキビの生産量が増加したことなどから、全体としては前SYより25億円増の456億円の見込みである。

(3) 収支

6SYの調整金収支は、43億円の黒字（糖価調整制度安定運営緊急対策交付金60億円の計上を含む。同交付金を除くと17億円の赤字）と6年度ぶりに黒字に転じたものの、期末残高はマイナス595億円（5SY期末：638億円の赤字）の見込みと引き続き大変厳しい状況である（表1、図1）。

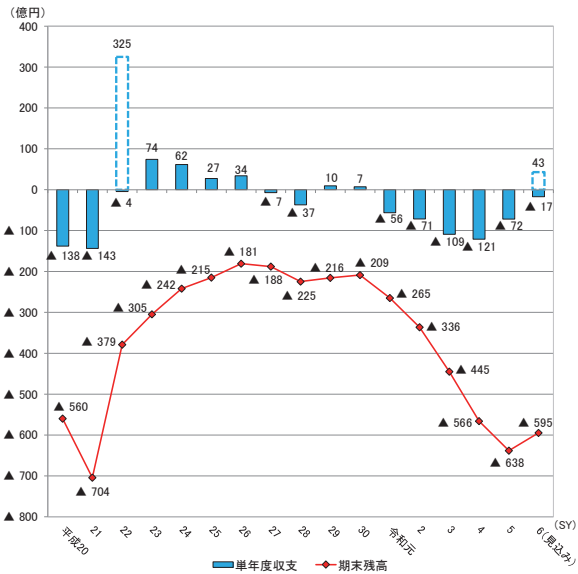
表 1 6SY収支見込みおよび前年度比較

(単位：億円)

	令和4SY	5SY	6SY(見込み)	対5SY増減
収入	416	358	499	141
輸入糖	220	154	211	58
異性化糖	—	10	22	12
輸入加糖調製品	95	103	107	3
国費	102	91	99	8
その他	0	0	60	60
支出	538	431	456	25
てん菜糖	148	104	67	▲ 37
甘しや糖	78	66	65	▲ 2
てん菜(国庫納付)	106	64	99	35
サトウキビ	205	195	222	26
その他	1	1	4	2
単年度収支	▲ 121	▲ 72	43	116
期末残高	▲ 566	▲ 638	▲ 595	43

注 1：ラウンドの関係で合計および増減が一致しない場合がある。
注 2：てん菜（国庫納付）は確定前のため見込みを記載。最終確定は令和 8 年 2 月の見込み。

図 1 砂糖の調整金収支の推移



注 1：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。
注 2：平成22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円、令和6SYに糖価調整制度安定運営緊急対策交付金60億円を充当。平成22SY、令和6SYの単年度収支の点線は充分分を計上したものである。

2 調整金徴収業務

(1) 6SYの指標価格など

6SYを含む直近3年間の指標価格等は表2の通り。

表 2 直近3砂糖年度の指標価格等

	令和4SY	5SY	6SY
砂糖調整基準価格（円/トン）	153,200	153,200	153,200
前年比（円）	± 0	± 0	± 0
指定糖調整率（％）	37.00	37.00	39.32
前年比（ポイント）	± 0	± 0	2.32

注 1：砂糖調整基準価格とは、輸入粗糖と国内産糖との価格調整の基準となる金額。
注 2：指定糖調整率とは、粗糖の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。粗糖の内外コスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

(2) 砂糖の需要と供給

令和 7 年 9 月に農林水産省が公表した「令和 7 砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第

1 回）」（以下「需給見通し」という）によると、6SYの砂糖の需給動向の見込みは表 3、4 の通り。

表3 砂糖の需給実績見込み

(単位：千トン)

項目			期間	令和5砂糖年度 (実績)	令和6砂糖年度				
					10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績見込み)	計
消費量	分蜜糖		1,742	472.8	400.9	444.8	433.0	1,752	
	含蜜糖		35	8.0	11.8	10.5	7.9	38	
	合 計		1,777	480.8	412.7	455.3	440.9	1,790	
供給量	国内産糖	分蜜糖	575	326.5	289.3	67.4	-	683	
		含蜜糖	8	1.5	7.4	1.8	-	11	
		小 計	583	328.0	296.7	69.2	-	694	
	輸入糖	分蜜糖	1,159	287.1	187.0	342.8	293.5	1,110	
		含蜜糖	7	1.6	2.1	2.1	0.9	7	
		小 計	1,166	288.7	189.1	344.9	294.4	1,117	
	合 計	分蜜糖	1,734	613.6	476.3	410.2	293.5	1,794	
		含蜜糖	15	3.1	9.5	3.9	0.9	17	
		小 計	1,749	616.7	485.8	414.1	294.4	1,811	
期末在庫			304	444.5	499.2	478.7	312.0	312	

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：分蜜糖は精糖ベースの数量、含蜜糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分蜜糖供給量は、機構売買数量である。

表4 砂糖及び異性化糖の需給総括表

砂糖 年度	総需要量		国内産糖生産（供給）量					輸入量	1人当たり 消費量	異性化糖 需要量
		対前年比		てん菜糖			甘しや糖			
					白糖					
					白糖	原料糖				
	千トン	%	千トン	千トン	千トン	千トン	千トン	千トン	kg	千トン
昭和50	2,877	5.6	449	224	224	-	213	2,351	25.6	-
55	2,614	▲ 10.7	765	535	535	-	223	1,548	22.3	432
60	2,655	0.5	870	574	574	-	285	1,779	21.9	617
平成2	2,643	0.4	865	644	527	116	212	1,693	21.3	725
7	2,435	▲ 1.5	842	650	491	159	183	1,606	19.4	733
12	2,293	▲ 0.3	730	569	446	123	153	1,483	18.1	741
17	2,165	▲ 2.9	839	699	452	247	132	1,326	17.0	790
19	2,197	0.7	861	683	454	229	169	1,380	17.2	824
20	2,136	▲ 2.8	878	683	451	232	186	1,222	16.7	784
21	2,099	▲ 1.7	861	683	433	250	168	1,263	16.5	803
22	2,095	▲ 0.2	655	490	424	66	156	1,431	16.4	806
23	2,039	▲ 2.7	674	564	446	118	104	1,375	16.0	812
24	2,026	▲ 0.6	691	561	416	145	122	1,338	15.9	827
25	2,006	▲ 1.0	687	551	410	140	129	1,284	15.8	812
26	1,971	▲ 1.7	737	607	410	197	122	1,220	15.5	792
27	1,983	0.6	813	676	423	253	129	1,235	15.6	818
28	1,957	▲ 1.3	688	505	400	105	173	1,214	15.4	832
29	1,921	▲ 1.8	794	656	432	224	128	1,111	15.2	832
30	1,895	▲ 1.4	745	614	401	213	120	1,183	15.0	824
令和元	1,779	▲ 6.1	788	650	415	235	127	1,030	14.1	785
2	1,769	▲ 0.6	783	630	384	246	142	1,025	14.1	750
3	1,803	1.9	792	639	386	252	144	984	14.4	760
4	1,804	0.0	702	562	399	163	132	1,065	14.5	767
5	1,800	▲ 0.2	584	447	374	73	128	1,174	14.5	772
6（見込み）	1,813	0.7	694	540	412	128	144	1,117	14.6	764
7（見通し）	1,810	▲ 0.2	652	507	390	117	136	1,130	14.6	780

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：分蜜糖は精製糖ベースの数量、含蜜糖については製品ベースの数量、異性化糖は標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

注2：国内産糖生産量と輸入量の合計と総需要量の差は在庫変動である。

注3：国内産糖生産量の合計には含蜜糖生産量を含む。

注4：総需要量は、分蜜糖消費量、含蜜糖消費量および工業用などの合計である。

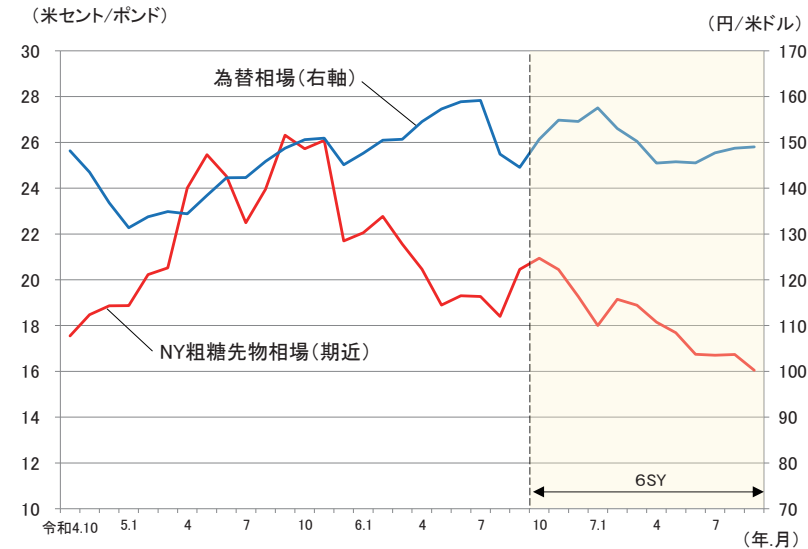
注5：輸入量は、通関実績の数値である。

(3) 国際相場などの動き

ニューヨーク粗糖先物相場の6SYの動きは、SY当初は前SYから引き続いて高値の水準で推移していたものの、ブラジルの降雨予報で干ばつの懸念が和らぎ作柄の改善により砂糖生産量が増加の見通し

となったことや、インドの砂糖輸出規制が緩和されたことなどにより、全体としておおむね下落基調で推移した。令和7年9月の平均価格は16.05米セントとなり、前年同月比21.5%安で6SYを終えた（図2）。

図2 ニューヨーク粗糖先物相場および為替相場の推移（月平均）



(4) 粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格等

6SYの粗糖および加糖調製品糖の平均輸入価格、

異性化糖の平均供給価格は表5～7の通り。特に、粗糖は国際相場が下落基調となったことから、平均輸入価格は前SYを下回って推移した。

表5 粗糖の平均輸入価格等

期 間		粗糖 平均輸入価格 (円/トン)	粗糖 (円/トン)				粗糖NY相場		為替 (円/米ドル)
			買入価格	売戻価格	軽減額	調整金単価	(米セント/ポンド)	(米ドル/トン)	
令和 4SY	令和4年 10月～12月	82,460	82,460	104,734	3,900	22,274	18.20	401.24	138.50
	5年 1月～3月	88,910	88,910	108,797	3,900	19,887	19.08	420.64	143.59
	5年 4月～6月	87,670	87,670	108,016	3,900	20,346	20.67	455.69	133.69
	5年 7月～9月	104,290	104,290	118,487	3,900	14,197	24.88	548.50	137.09
5SY	5年 10月～12月	109,950	109,950	121,853	4,100	11,903	24.60	542.33	145.09
	6年 1月～3月	118,090	118,090	126,981	4,100	8,891	25.90	570.99	149.45
	6年 4月～6月	108,020	108,020	120,637	4,100	12,617	22.47	495.37	148.81
	6年 7月～9月	104,620	104,620	118,495	4,100	13,875	19.73	434.97	156.14
6SY	6年 10月～12月	100,740	100,740	117,167	4,200	16,427	19.11	421.30	151.84
	7年 1月～3月	107,650	107,650	121,360	4,200	13,710	21.81	480.82	152.17
	7年 4月～6月	99,610	99,610	116,482	4,200	16,872	19.38	427.25	154.39
	7年 7月～9月	88,410	88,410	109,685	4,200	21,275	17.63	388.67	146.11

表6 加糖調製品糖の平均輸入価格等

期 間		加糖調製品糖 平均輸入価格 (円/トン)	加糖調製品糖 標準価格 (円/トン)
令和 4SY	令和4年 10月～12月	150,111	231,378
	5年 1月～3月	152,752	237,548
	5年 4月～6月	150,046	236,362
	5年 7月～9月	163,534	252,259
5SY	5年 10月～12月	169,925	243,237
	6年 1月～3月	175,473	250,496
	6年 4月～6月	162,976	241,515
	6年 7月～9月	158,759	238,483
6SY	6年 10月～12月	154,621	238,063
	7年 1月～3月	158,411	243,991
	7年 4月～6月	153,660	237,095
	7年 7月～9月	147,579	227,486

表7 異性化糖の平均供給価格等

期 間		平均供給価格 (円/トン)	異性化糖 標準価格 (円/トン)	調整金単価 (円/トン)
令和 4SY	令和4年 10月～12月	183,071	146,491	-
	5年 1月～3月	184,982	150,390	-
	5年 4月～6月	177,638	149,645	-
	5年 7月～9月	172,217	159,710	-
5SY	5年 10月～12月	168,966	165,154	-
	6年 1月～3月	169,700	170,089	389
	6年 4月～6月	167,994	170,003	2,009
	6年 7月～9月	172,271	174,485	2,214
6SY	6年 10月～12月	164,279	166,725	2,446
	7年 1月～3月	169,679	172,381	2,702
	7年 4月～6月	175,986	178,971	2,985
	7年 7月～9月	166,957	170,254	3,297

注：異性化糖の平均供給価格が異性化糖標準価格を下回った場合に機構売買を行う。

(5) 売買実績

ア 輸入糖

6SYの輸入糖の売買数量は、前SY比3.9%減の115万6000トンとなった（表8）。これは、好調なインバウンド需要により砂糖需要量が増加したものの、国内のてん菜糖供給量が回復したためである。一方、粗糖の平均輸入価格が低下し、調整金単価が上昇したことから、売買差額は前SY比37.4%増の211億4500万円となった（表8）。

イ 異性化糖

異性化糖は、前SY中の令和6年1～3月期に平

均供給価格が標準価格を下回って13年ぶりに売買が発生し、同年4月以降は異性化糖売買の運用見直しにより、継続して売買が発生している。6SYの異性化糖の売買数量は、前SY比27.5%増の76万6000トンとなり、売買差額は、調整金単価の上昇も相まって前SY比2.2倍の22億1700万円となった（表8）。

ウ 輸入加糖調製品

6SYの輸入加糖調製品の売買数量は、前SY比0.6%減の32万4000トンとなった。これは、円安を背景に砂糖に対する価格優位性が薄れたことなど

が要因として考えられる。他方、ココア調製品のCIF価格（課税標準価額）が上昇したことなどから、

売買差額は前SY比3.2%増の106億7300万円となった（表8）。

表8 輸入糖・異性化糖・輸入加糖調製品の売買実績

SY	輸入糖		異性化糖		輸入加糖調製品		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
令和4	1,098	21,972	—	—	360	9,526	31,498
5	1,203	15,390	601	1,010	326	10,344	26,744
6	1,156	21,145	766	2,217	324	10,673	34,035

注1：ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

注2：異性化糖の令和5SYの実績は、令和5年12月まで売買が無かったことから、令和6年1月から9月までの間の実績である。

3 交付金交付業務等

(1) 甘味資源作物および国内産糖の生産動向

ア てん菜・てん菜糖

6SYの北海道のてん菜は、作付面積の減少に加

え、生育期間中の気温が総じて平年より高く推移し、昨年ほどではなかったものの各地で褐斑病^{かっぱんびょう}の発生が確認され、根中糖分の低下が見られた。他方、単収は平年をかなり上回ったことから、てん菜の生産量は前SY比2.4%増の348万5000トン、産糖量は同20.5%増の54万トンとなった（表9）。

表9 てん菜・てん菜糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和4	55,182	64.23	3,545	15.87	562
5	51,081	66.61	3,403	13.15	448
6	48,847	71.34	3,485	15.50	540

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

イ サトウキビ・甘しゃ糖

6SYの鹿児島県および沖縄県のサトウキビは、収穫面積が増加したことに加え、一部の島において台風の影響などが見られたものの、全体としては気

象条件に恵まれた。その結果、両県を合わせた生産量は前SY比18.9%増の140万4000トン、産糖量は同12.7%増の15万1000トンとなった（表10、表11）。

表10 鹿児島産サトウキビ・甘しゃ糖の生産動向

SY	収穫面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分蜜糖原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和4	9,566	55.73	533	99.03	11.78	62
5	9,502	54.36	517	99.02	12.32	63
6	9,566	58.40	559	99.14	11.47	64

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

表11 沖縄産サトウキビ・甘しゅ糖の生産動向

SY	収穫面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分蜜糖原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和4	13,679	53.91	737	91.99	11.26	76
5	13,164	50.46	664	91.31	11.69	71
6	13,484	62.67	845	90.96	11.30	87

資料：農林水産省「令和7砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

(2) 交付金の交付状況など

ア 甘味資源作物交付金（サトウキビのみ）

6SYの甘味資源作物交付金^(注1)は、サトウキビ生産量の増加により、交付決定数量は前SY比18.2%増の132万2000トンとなり、交付決定金額は同

13.5%増の221億6900万円となった（表12）。

（注1）サトウキビの収穫期はおおむね12月から翌年5月ごろまでであり、製造事業者への売渡し数量に応じて生産者に交付金を交付している。

表12 甘味資源作物交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)	(参考) 基準糖度帯
令和4	16,860	1,206	20,502	13.1度～14.3度
5	16,860 (16,030)	1,118	19,536	13.1度～14.3度
6	16,860 (16,020)	1,322	22,169	13.1度～14.3度

注：令和5SY以降の交付金単価の上段は免税事業者向け、下段かっこ内は課税事業者向けの単価である。

イ 国内産糖交付金

(ア) てん菜糖の交付状況

6SYのてん菜糖に係る国内産糖交付金^(注2)は、交付決定数量が前SY比1.4%減の50万5000トン

となり、交付決定金額は、更なる交付金単価の低下もあって同35.4%減の67億円となった（表13）。

（注2）てん菜糖製造事業者の販売は年間を通じて行われ、販売数量に応じて交付金を交付している。

表13 てん菜糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量		交付決定金額 (百万円)
		年産	数量（千トン）	
令和4	23,788	令和2	1	14,763
		3	243	
		4	381	
5	19,828	3	1	10,378
		4	181	
		5	330	
6	12,689	4	1	6,700
		5	117	
		6	387	

注：表のほか、令和4SYは令和元年度119トン、令和5SYは令和2年度257トン、令和6SYは令和3年度42トンの交付決定を行っている。

(イ) 甘しや糖の交付状況

6SYの甘しや糖に係る国内産糖交付金^(注3)は、サトウキビの生産量の増加に伴う産糖量の増加により、交付決定数量は前SY比11.9%増の15万トンとなり、交付決定金額は、てん菜糖と同様に交付金単

価の低下により同2.4%減の64億5400万円となった(表14)。

(注3) 甘しや糖製造事業者が製造した粗糖は、製糖後それほど期間を置かずに精製糖メーカーに販売されるため、操業時期に対応して交付金を交付している。

表14 甘しや糖交付金交付決定実績

SY	鹿児島県産		沖縄県産		合計	
	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
令和4	62	3,252	76	4,585	138	7,837
5	63	2,851	71	3,762	134	6,613
6	63	2,401	87	4,053	150	6,454

注：交付金単価は、島ごとに設定されているため省略する。

(3) 国庫納付金（てん菜）

6SYのてん菜に係る国庫納付金^(注4)は、調整金収入などから99億1600万円となる見込みである。6SYは、前SYと比較し調整金収入の増加およびてん菜の生産量の増加などにより、納付金額も増加する見込みである(表15)。

(注4) てん菜生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、国庫納付金を納付している。

表15 国庫納付金納付実績

SY	国庫納付金額 (百万円)
令和4	10,593
5	6,424
6（見込み）	9,916